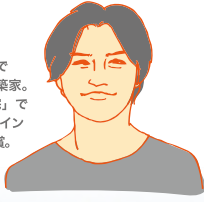


「つながる暮らし」で毎日を豊かに

「こんな暮らしがしたい」から
生まれたコンセプトモデル

「家を建てる」って、何から始めると思いませんか？ 間取りを考えること？ 土地を探すこと？ 資金計画？ 「さくほの家」では、これから家を建てたいと考えている女性たちが「佐久穂町に暮らす幸せを味わえるライフスタイルってどんな感じ？」と考えるところから始めました。そして、建築家の川辺直哉先生にご提案いただいた「つながる暮らし」というコンセプトを具現化したプランをベースに、もっとこうしたい、こうするほうがいいんじゃないかと意見を出し合い、町で住宅建築に携わる「さくほの家造り職人ネットワーク」のメンバーたちとも検討を重ねて、平屋、2階建て、集合住宅それぞれの「さくほの家」コンセプトモデルができました。



日本とアジア諸国で活躍する気鋭の建築家。「鎌倉材木座の住宅」で2016年グッドデザイン・ベスト100を受賞。

川辺 直哉さん
川辺直哉建築設計事務所
一級建築士

さくほの家平屋モデル

3DCGでもご覧いただけます。

さくほの家の物語.JP 検索
<http://sakuhono-ie.jp/home/>



車だって美しく格納したい

自然素材を使ってスタイリッシュにしたい

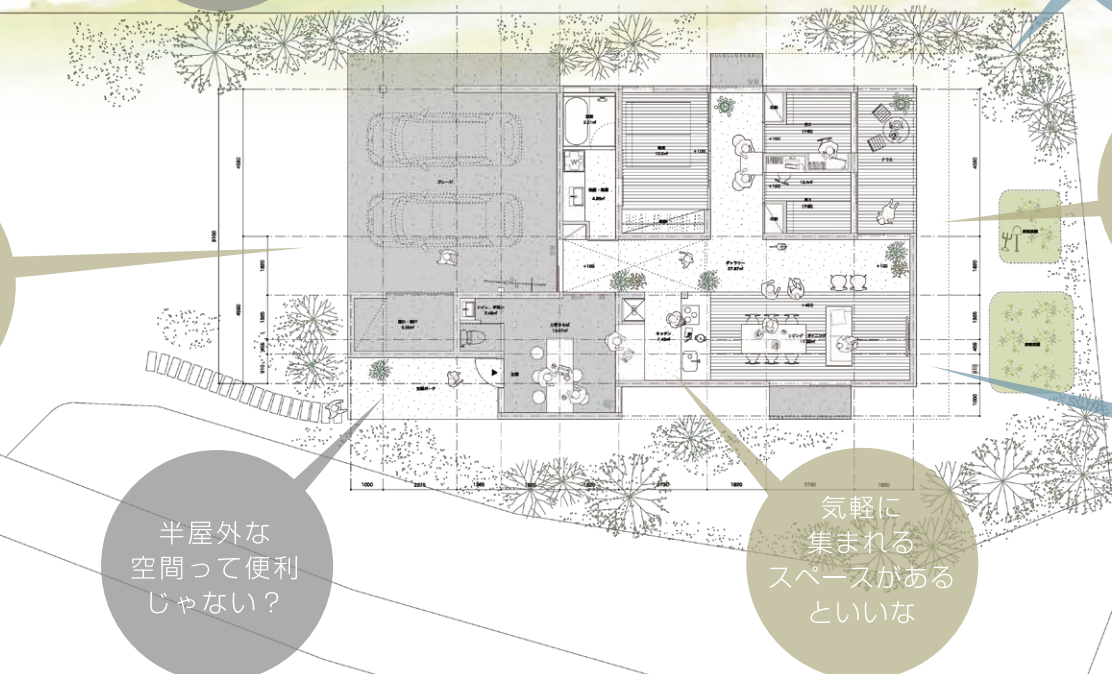
風や太陽を感じて暮らしたい

庭先で外遊びや家庭菜園が楽しみたい

空を眺め光を取り込みたい

半屋外な空間って便利じゃない？

気軽に集まれるスペースがあるといいな



つながり、交わりから
生まれるもの

川辺先生はこうおっしゃっています。「家というものが本質的にもつ役割は、人、もの、こと、風土、文化、歴史といった様々な事象をつなげ受け継いでいくことだと考えています。さくほの家シリーズでは『つながる暮らし』をコンセプトに、豊かな自然や気持ちのよい風景を暮らしに取り入れ、家族や周囲の人たちとの心地よい関係性を育てていけるような空間作りを目指しています。そのヒントになったのが、伝統的な家にあった『土間』のよさです。家の外と中の中間的な位置づけで、農具を置いたり、作業をしたり、炊事にも使える汎用性の高い空間でした。そうした目的を限らない緩衝帯のような空間を設けることで、家族はお互いにその時々心地よい『間』を作ることができるし、リビングやダイニングなどの部屋も、つながることで実際の面積以上に広く感じられ、使い方の自由度も増すのです。玄関やデッキに外と中の緩衝帯を作ることによって、周囲の人との交流も促しつつ、距離も適度に保つことができますよ。」

あなたの暮らし、あなたの家はどうします？



四季の移り変わりを感じる豊かさ



ジバ共和国のじいじ・ばあばとお芋掘り



果物や野菜がすぐそばで育っています

集まってお料理したりするのも楽しいね

世代や職業などを超えて交流できる場が数多くあります



自然いっぱい 人もやさしい さくほの暮らし

農具や資源ゴミなどを気兼ねなく置いておきたい

コンセプトモデルから

「自分の家」のイメージを

これらのコンセプトモデルは、あくまで「一つの例」であり、ご自分にとって佐久穂町での心地よい暮らしと、それを実現できる家をイメージするための手助けになればと考えています。ワークショップを通じて参加者の皆さんからは、「住まいは買つものではなく、作れるものだと思った」「自分と家族のものというだけでなく、地域や自然とのつながりを通してより快適性が増すのだと感じた」などという感想をいただいています。あなたは何を大切に、どんな暮らしをしたいのか、具体的に考えてみましょう。

